序

集中治療室（ICU）におけるBy systemによるプレゼンテーションは，今でこそ国内で当たり前のように用いられていますが，筆者が研修医だった20年前はほとんど知られていませんでした．また，過去のICU回診は患者アセスメントよりも同僚への申し送りやベッドサイド処置に主眼がおかれていました．筆者は，縁があって米国で臨床留学を行う機会に恵まれ，なかでも集中治療の研修はこれまでの既成概念を打ち破る貴重な経験でした．ベッドサイド回診で上級医と下級医が，ときには多職種の医療スタッフも加わり患者の病態や診療方針を真剣にディスカッションする風景は圧巻でした．私自身は，その環境に身をおくだけで日々医学知識へのモチベーションが高まり，同時に集中治療医としてのプロフェッショナリズムも大いに培われました．この貴重な体験は日本に戻ってから日本の医療者へぜひとも伝えたい，そのような思いから帰国後はICUで臨床診療へ従事しています．今回，自施設ICUのベッドサイド回診の教育風景を多くの読者へ伝えたいという思いを羊土社編集部の方々へお伝えしたことから本書の企画がスタートしました．

筆者が米国の集中治療研修で学んだことは単に医学的知識に留まらずプレゼンテーションや双方向性のディスカッション，プロフェッショナリズムなど多岐にわたります．今回，本書でご紹介するのは，米国で学んだことをベースに自施設のICUベッドサイド回診やコアレクチャーで実践している内容です．本書では、ICUで多く遭遇する18の疾患・病態をBy systemに沿って取り上げ，それぞれ症例提示とコアレクチャーの２部構成としています．症例提示では，実際にベッドサイド回診で行われているディスカッション，ティーチングポイントを「集中治療医の視点」や「ミニレク」等のコーナーを設けて解説しています．また，コアレクチャーでは各症例で知っておくべき病態や疾患について文献的な内容も交えて取り上げています．このコアレクチャーは，ICU回診だけでは解説しきれない疾患や病態の知識を，しっかり系統的に身につけられることを目的としたもので，自施設で集中治療科スタッフが毎週１回昼の時間帯に30～45分で講義をしている内容をベースに作成したものです．今回本書で取り上げた内容は，2021年の集中治療科立ち上げからICU回診で繰り返しディスカッションされてきたトピックを当院集中治療科の医師が総力をあげて作り上げた渾身の１冊です．読者の方々には，双方向性で行われているベッドサイド教育回診の雰囲気を少しでも感じていただければ，またその内容をもとに明日からの診療へ活かしていただければ幸いです．

2025年１月

東京都立墨東病院 集中治療科
牧野　淳